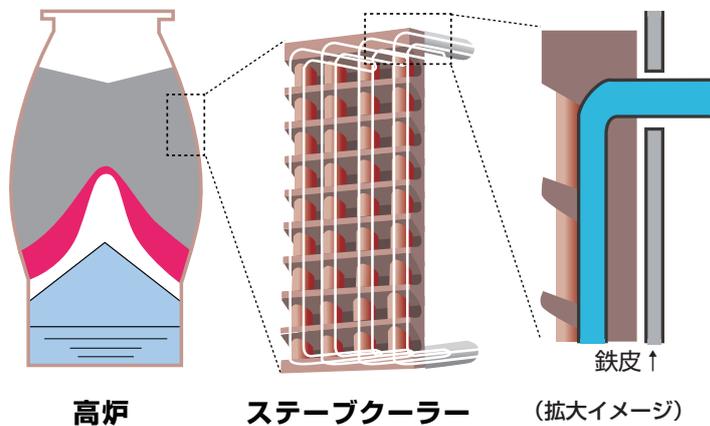


高炉内 冷却管の破損箇所発見は「気泡検知」から

高炉メンテナンス担当者の声

高炉はその集約化が進む中、高い稼働率の維持が求められています。高炉を冷却するためのステーブクーラーには冷却水の配管が張りめぐらされており、この冷却管が破損すると、高炉全体にダメージを与え、鉄の品質に影響したり、高炉停止につながるおそれがあるため、迅速な修復が必要です。

高炉改修には莫大な設備投資や時間を要するため破損箇所の早期発見・早期修復が必要です。



HORIBA のソリューション

冷却管が破損すると高炉内のガスが
破損部から冷却管内に侵入



気泡検知器で異常を検知し、破損箇所の
早期発見・早期修復を可能にします

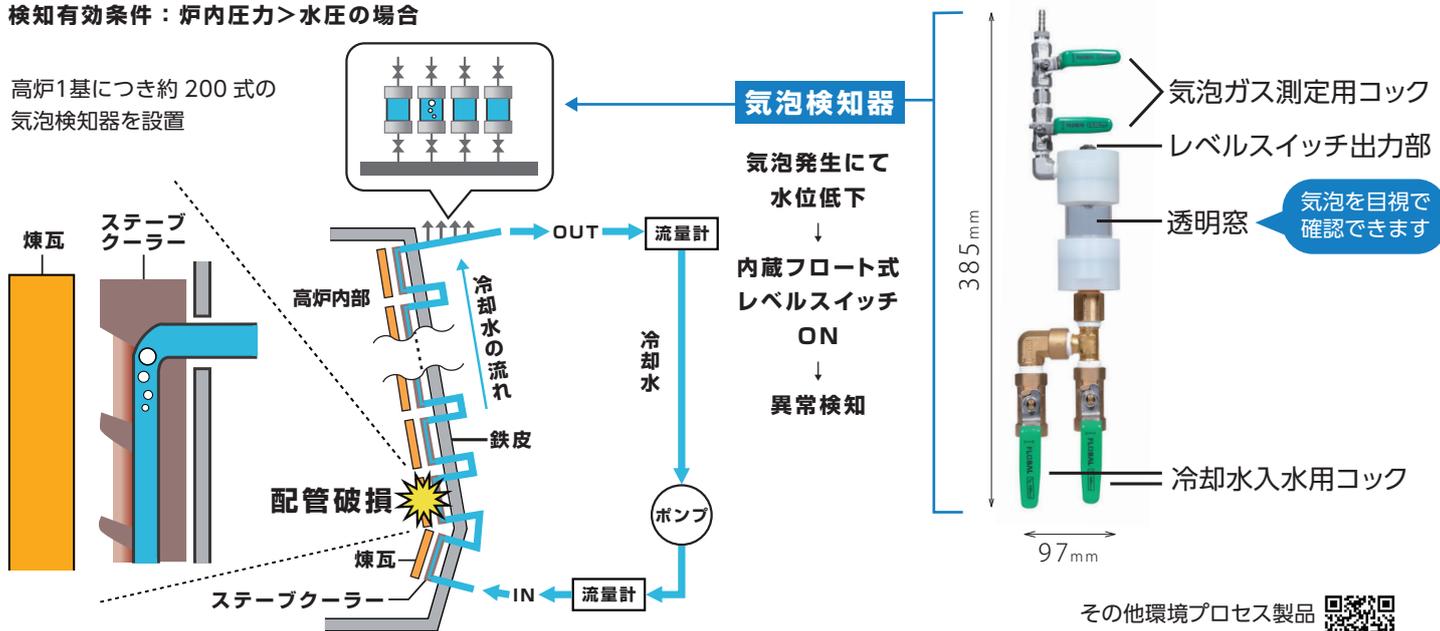
<気泡検知器の特長>

- ▶筒部に樹脂を採用。約1kgと軽量のため短時間で安全に取り付けられます。
- ▶透明窓を採用し、気泡の発生を目視で確認できます。また気泡発生量が所定量を超えると内蔵スイッチにより異常を知らせます。
- ▶気泡ガス測定用コックがついており、CO検知器などでガス成分を確認できます。
- ▶ダブルコックを採用。定検作業時のポカミスを低減します。

現場での運用事例

検知有効条件：炉内圧力>水圧の場合

高炉1基につき約200式の
気泡検知器を設置



その他環境プロセス製品
ラインアップはこちら→

